

# 自分の意見を持ち、選択・判断できる児童の育成

大江町立左沢小学校教諭 6学年 板坂 朋憲

実施年月日：令和2年1月14日～31日 20名

## 1 実践計画・指導のねらい

税という言葉は聞いた事があるが、どのように集められ、どのように使われているのか等わかる児童は少ない。税金はどうして払う必要があるのか、税金を必要としているのはどんな場所、人なのかをを通して、税金は私たちの暮らしを支え、重要な役割をしているということを理解し、さらには公助の働きがあることに気づいてほしい。この学習を通して、社会的な見方・考え方を働かせて自分の意見をしっかり持ち、選択・判断できる実践力を身に付けていきたい。それらを踏まえ、本単元では以下の3点の学習内容を考えた。①税金が私たちの暮らしを支えていることを知る。②消費税を例に、税金の必要性を考える。③税金の使い道について考える。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・大江町中央公民館「ぶくらす」がどのようにして建てられたかを知る。	○ 「ぶくらす」はどのようにして建てられたのだろう。 ● 町民の願いをもとに建てられたんだね。 ● すごい金額かかっているんだ。どうやってお金をあつめたんだろう。 ● 建設、管理、働く人に税金が使われているんだね。 □使用教材名 大江町町報平成26年9月号
2	・税金の集められ方や税金の使われ方について知る。	○ 税金がどのように集められ、どんなことに使われているか調べよう。 ● 消費税って知っているよ、去年10%になったよね。 ● 軽減税率って最近聞くよね。 ● 公共施設や消防、ごみ処理にも税金が使われているんだね。 □使用教材名 教科書「新しい6年 下」
3	・租税教室を通して税に対して理解を深める。 【租税教室】	○ 税金がなくなったらどうなるだろう。 ● 道路やはしがこわれても直せないで、自由に移動できない。 ● 勉強するのもすごい大金がかかってしまう。 ● 一億円って重いんだね。 □使用教材名 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 一億円レプリカ
4	・消費税率10%（日本）と25%（スウェーデン）で税金がどう使われているか比較し、どちらがよいか議論する。	○ 消費税が10%と25%の2つの国を比較し話し合おう。 ● 消費税率25%は高額な買い物をするときたいへんだよ。教育や病院が無料になっても普段の買い物がたいへんだよ。 ● スウェーデンはみんなでお金合っているんじゃないかな。 ● 10%でも25%でも将来的に払うお金は合計すると同じくらいになるんじゃないかな。 □使用教材名 副教材「わたしたちの暮らしと税金」
5	・税収等で得た国の予算100兆円を日本のために使うならどのような割合にするか考える。	○ 税金を日本のためにどのように使うか考えよう ● 教育にもっとお金をかけよう。 ● 社会保障費は20%必要だよ。 ● 毎年借金が増えているからもう少し高い割合にして返せるようにしましょう。

**【指導のポイント】<1時間目>**  
身近でよく使う公共施設が税金によって建設され、運営されていることを知り、税金に対する関心を高めた。

**【指導のポイント】<時間外>**  
学級活動の中で税の絵葉書を描き税に対する親しみを持つことができた。

**【指導のポイント】<3時間目>**  
租税教室を発展的、補助的に位置づけ、税に対する理解を深めるようにした。税金がもしなかったらと仮定して考えることで税金が生活に密接に関連していることを理解することができた。

**【指導のポイント】<4時間目>**  
新学習指導要領6学年目標にある「考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う」を実践した。日本とスウェーデンの消費税率と税の使い方を比較することを通して税に対する理解が深まった。

**【指導のポイント】<5時間目>**  
新学習指導要領6学年目標にある「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養う」を実践した。日本の税収を含む予算をどのように使っていくべきかグループで考え、円グラフに表した。議論しながら今の日本の実態に合わせて「日本のために適切に税金を使う」という社会的思考を働かせていた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 消費税率が10%と25%の国を比べ、議論した結果、児童の発言から税金は公共施設に使われるだけでなく公助の働きがあるということに気づいた児童がいた。
  - ◎ 税金の使い方を考えたことで、税金を適切に日本のために使おうという姿勢が見え、税金の必要感を生むことにつながった。
  - ◆ 租税教室を単元の前半に位置づけ、基礎的な内容を理解したうえで、授業で発展的な内容を扱うという単元構成も考えられた。
  - ◆ 調べ学習を通して児童自らまとめるような構成も考えられた。ただ、調べ学習に使う資料の選定が難しく、6年生に対応した教材・資料の開発が必要であると感じた。
- (その他) 増税や軽減税率など税に関する変化のあった年だったので、イー・インスペースを持つ店舗で働く方の工夫等インタビューできる機会を設けて広げるという方法も考えられる。